

社会資本総合整備計画 事後評価

安心・安全で『すこやか』に暮らせるまち かしはら

奈良県 橿原市

評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県	市町村名	橿原市	計画期間	平成26年度～平成29年度	全体事業費	5,402,000 千円
計画名	安心・安全で『すこやか』に暮らせるまち かしはら						
計画目標	橿原市が掲げるまちづくりの理念である「人とともに、歴史とともに、やさしく強いまち かしはら」を実現するため、本市の個性ある特色を活かしたまちづくりを進めるとともに、少子高齢化社会等に対応した安心かつ安全で、災害に強い都市基盤整備や長寿化対策等を計画的に実施する。						

1) 事業の実施状況	番号	要素となる事業名	削除・追加した理由		削除・追加による指標等への影響
			削除	追加	
基幹事業	1-A-1	小槻町・十市町線			無し
	1-A-2	今井五井線(今井地区)			
	1-A-3	畝傍駅前通り線(今井地区)			
	1-A-4	真菅駅南周辺整備事業			
	1-A-5	市道慈明寺町・四条町線			
	1-A-6	雲梯町・古川町線			
	7-A-1	浸水対策下水道事業			
	7-A-2	長寿化対策事業			
	12-A-1	橿原市公園施設長寿化対策			
	12-A-2	橿原市安全安心事業			
12-A-3	都市公園事業(新沢千塚古墳群公園)				
12-A-4	橿原市公園施設長寿化計画策定業務				
12-A-5	都市公園事業(橿原運動公園)	追加	一部施設の老朽化に伴い新たな施設整備が必要となった為		
関連社会資本整備事業					
効果促進事業	C-1	集客を促進する「休憩・眺望ゾーン」の創設			指標3に影響有り
	C-2	無電柱化事業			
	C-3	橿原市における都市計画道路整備計画策定事業			
	C-4	安心安全な地域づくり事業			
	C-5	安心安全な地域づくり事業	削除	補助金を活用して事業実施しなくなった為	
	C-6	災害資材備蓄整備事業			
	C-7	都市公園事業(新沢千塚古墳群公園)			
	C-8	防災訓練	削除	補助金を活用して事業実施しなくなった為	
	C-9	八木南市有地活用事業	削除	補助金を活用して事業実施しなくなった為	
	C-10	真菅駅南周辺整備事業	削除	補助金を活用して事業実施しなくなった為	
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成29年度	変更	変更無し	

2) 社会資本総合整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標	単位	達成度(事後評価時)			目標達成度	達成見込みの有無		所見(効果発現要因等)
			当初現況値	事後目標値	事後評価値		あり	なし	
			H26年当初	H29年末	H29.9				
指標1	市民アンケート調査による「災害に備える都市基盤と体制の強化」の満足度(%)を調査する。 満足度(A-B)＝「満足率」A(「満足」、「やや満足」と答えた人の割合%)－「不満足率」B(「やや不満」、「不満」と答えた人の割合%)	%	2.4%	10.0%	15.4%	○		継続的かつ計画的に各種事業を実施した結果、目標指標を達成することができた。しかし、市民アンケートの自由意見欄には、「災害時の避難場所の周知徹底を図って欲しい。」などの要望があった。今後も計画的に事業を進めるとともに、災害発生時及び発生時の恐れがある場合に、登録制メールである橿原市安全・安心メールや緊急速報メール、ホームページ等を活用し、積極的に情報発信を行い、市民の安全と安心を確保できるよう努める。	
指標2	市民アンケート調査による「安全で快適な道路の整備」の満足度(%)を調査する。 満足度(A-B)＝「満足率」A(「満足」、「やや満足」と答えた人の割合%)－「不満足率」B(「やや不満」、「不満」と答えた人の割合%)	%	-23.6%	0.0%	5.6%	○		他事業による整備も含め、継続的かつ計画的に事業を実施した結果、満足度が向上する結果となった。その一方で、「歩道がない。」「歩道があるが、狭い。」といった意見が多数寄せられており、道路の新設改良事業及び既存の道路の拡幅事業を計画的・効果的に実施することで、歩道空間の整備にも積極的に取り組み、安全で快適な道路づくりに努める必要がある。	
指標3	市民アンケート調査による「住み心地、住みやすさ」の満足度(%)を調査する。 満足度(A-B)＝「満足率」A(「満足」、「やや満足」と答えた人の割合%)－「不満足率」B(「やや不満」、「不満」と答えた人の割合%)	%	73.9%	75.0%	77.5%	○		継続的かつ計画的に各種事業を実施した結果、目標値を達成することができた。しかし、昨年実施した中間評価時に引き続き、市民アンケートの自由意見欄には様々なまちづくりに対する要望があり、まちづくりの課題を新たに発見することができた。新たな社会資本総合整備計画を作成する際には、このアンケートで出てきた意見を反映させ、さらなる事業の効率的・効果的な実施に努める必要がある。	
指標4	橿原市の公共下水道(雨水)整備率(%) (概ね10年に1回発生する規模の降雨に対応できる区域の面積(ha))/(概ね10年に1回発生する規模の降雨に対し整備が必要な区域の面積(ha))×100(%)	%	46.1%	46.5%	46.4%	△	●	他事業による整備も含め、H29年度末には目標指標を達成できる予定である。今後も投資効果の高い整備計画と、他事業とも連携し整備率の向上を図る必要がある。また、民間開発等の開発協議の指導により、雨水流出の抑制に努める。	
指標5	橿原市(白橿地区)の公共下水道(汚水)の長寿化対策率(%) ＝長寿化対策済延長(km)/長寿化対策の必要延長(km)×100(%)	%	20.0%	100.0%	61.3%	△	●	事業を継続的に実施することで、進捗率は年々向上してきているが、最終目標値を達成することができなかった。今後も、より緊急性の高いところから長寿化対策を事業していく予定であり、更なる事業の効率化を図っていく。	
指標6	1人あたりの都市公園等面積(m ² /人) 都市公園等の共用面積(m ²)/橿原市人口(人)	m ² /人	8.3m ² /人	9.0m ² /人	9.2m ² /人	○		新沢千塚古墳群公園の南群史跡部分の整備(約8.4ha)について、効率的な事業推進を図ったことで、目標を達成することができた。	
指標7	公園の長寿化対策率(%) 長寿化対策を実施した都市公園数(箇所)/都市公園数(箇所)×100(%)	%	8.4%	26.0%	22.4%	△	●	最終目標指標を達成することができなかったが、長寿化対策が必要とされた都市公園245箇所のうち、36箇所の対策を実施した。今後も市民ニーズ等を考慮し、老朽化した危険な遊具の更新事業を計画的・優先的に実施していく。	
指標8	公園内便施設(便所)のバリアフリー化率(%) 公園内便施設(便所)バリアフリー化実施数(箇所)/バリアフリー化が必要な公園内便施設(便所)数(箇所)×100(%)	%	68.4%	89.5%	68.4%	×	●	老朽化した、公園施設の長寿化対策を優先したため、公園内便施設(便所)のバリアフリー化については未着手の状態である。しかし、バリアフリー化の要望も多く、次期計画においては、計画的に実施していく予定である。	

3) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	緊急輸送路の整備や地域防災拠点の整備を進め、その進捗状況や整備の目的を広く住民に周知することで、市民の防災意識の向上に寄与している。
-------------------------	--

4) 地区の概要

道路事業
1-A-1 小槻町・十市町線

道路事業
1-A-4 真菅駅周辺整備事業

街路事業
1-A-2 今井五井線(今井地区)

街路事業
1-A-3 畝傍駅前通り線(今井地区)

C-1 集客を促進する「休憩・眺望ゾーン」の創設

C-2 無電柱化事業

C-3 檀原市における都市計画道路整備計画策定事業

道路事業
1-A-5 市道慈明寺町・四条町線

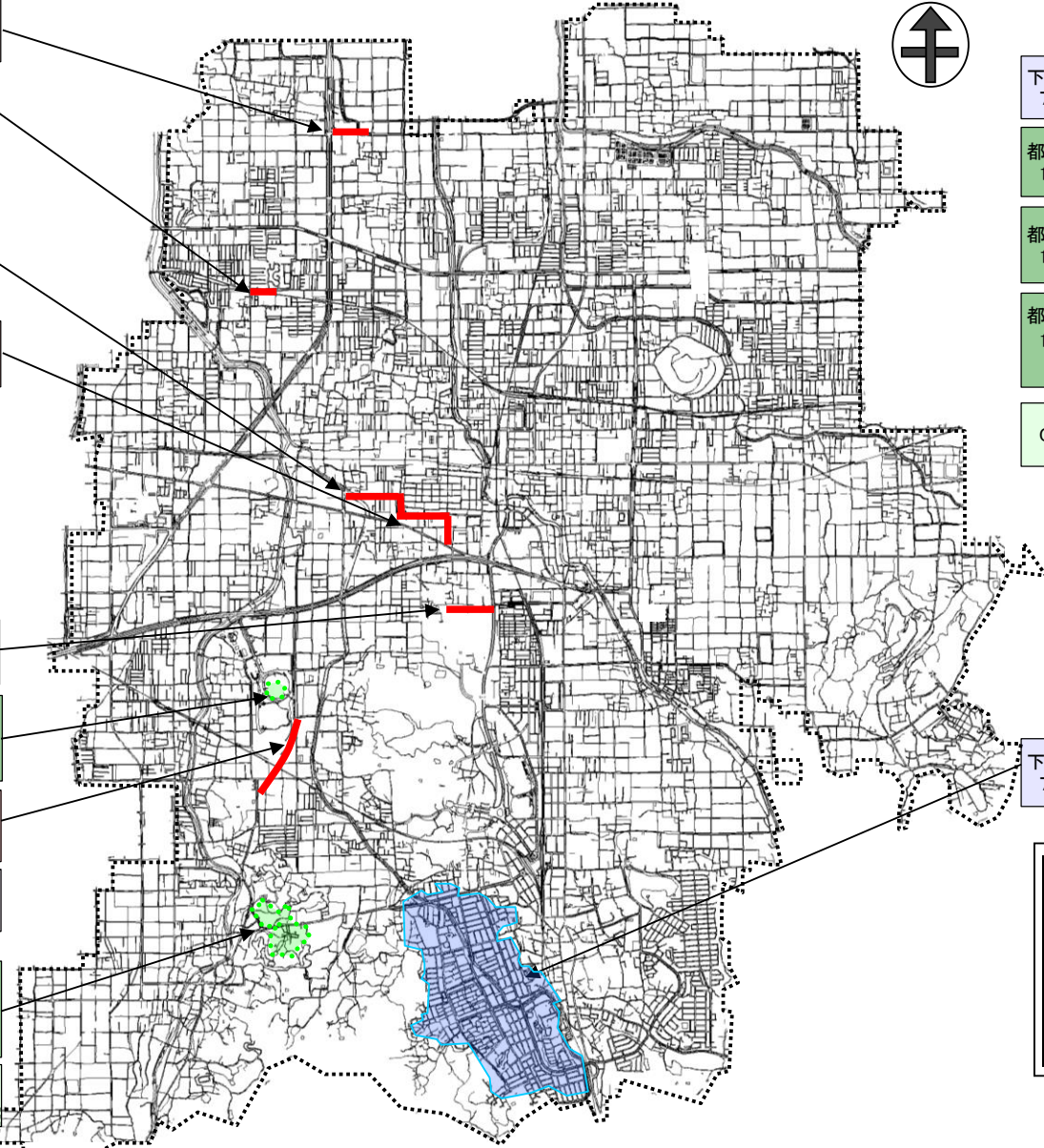
都市公園等事業
12-A-5 都市公園事業
(檀原運動公園)

道路事業
1-A-6 雲梯町・古川町線

C-4 安心安全な地域づくり事業

都市公園等事業
12-A-2 都市公園事業
(新沢千塚古墳群公園)

C-6 新沢千塚古墳群公園
(進入路等の整備)



下水道事業
7-A-1 浸水対策下水道事業

都市公園等事業
12-A-1 檀原市公園施設長寿命化対策

都市公園等事業
12-A-2 檀原市安全安心事業

都市公園等事業
12-A-4 檀原市公園施設長寿命化計画策定業務

C-5 災害資材備蓄整備事業

下水道事業
7-A-2 長寿命化対策事業(汚水)

凡 例		
行政区域界	
A1	道路事業	—
A7	下水道事業	■
A12	都市公園事業	■

5) 総合所見

国費が十分に配分されていない状況ではあるが、コスト縮減の取り組みや費用対効果の高い事業の整備に先行して着手するなど、効率的な事業展開を図った結果、概ね関連指標について目標を達成することができた。しかし、優先順位の高い施設整備に積極的に国費を配分した結果、施設の長寿命化対策に十分な国費を配分できず、長寿命化率は目標を下回った。

6) 今後の方策

- ・引き続き限られた予算の中での整備となることが想定されるため、市の重要施策に関する整備と併せて市民ニーズにも即した整備も継続して進めていく。
- ・今後増大する既存施設の維持管理費用を平準化するためにも、新規事業と維持管理事業をバランス良く行う必要がある。
- ・広報活動を通して、事業の目的や今後の整備方針等市民に情報を公開し、市の事業に対する理解度を高めてもらう。